

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
I. 理念に基づく運営						
1. 理念の共有						
1	1	地域密着型サービスとしての理念	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	大多数の入居者が市川市内で生活されていた為に、おにだか館近隣になじみがある。事業所としては地域、特に自治会と交流を持つ機会を作っている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	経営理念は管理者と職員に周知されており、その具体化についてフロア会議などの場で話し合っている		
3		家族や地域への理念の浸透	事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	毎月家族に手紙を送っている。その内容の一部に生活について書いているところがある。特に行事は自治会との交流の場もあり、地域の中で暮らしているところは伝えている。最近では多くの人が集まる公園でや、玄関前の花壇を見に来ている近隣の人達と挨拶を交わす事も多くなった		
2. 地域との支えあい						
4		隣近所とのつきあい	管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の人達が集まる公園や近くの商店に良く行くので、顔なじみになって、挨拶を交わす人も増えた。おにだか館裏の人は介護について理解が得られ、利用者の誕生日にケーキやお花など頂いたりしている		
5	3	地域とのつきあい	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の夏の盆踊りの参加は恒例になっていて、楽しみにしている。自治会からもボランティアで踊りの披露など、おにだか館で行ってる行事に参加して頂いている。傾聴のボランティアも来ている		
6		事業所の力を活かした地域貢献	利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、取り組んではいない		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用						
7	4	評価の意義の理解と活用	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回、要改善のチェック項目はすぐに改善するように努めた。また、職員間では自分たちでは気づかないことを、第三者の専門家に見てもらうことで、気づく事があるので、はと思っている。		
8	5	運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おにだか館のグループホームがどのような事を行っているかを運営推進会で伝えている。そこでの意見交換は利用者、地域、家族の共通のものと捉え、サービス向上に活かしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
9	6	市町村との連携	事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の介護福祉課に報告、連絡、相談などで電話や、訪問している。役所にはおにだか館のリーフレットをおいて、広く市民に見てもらっている。		
10		権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、取り組んではいない		
11		虐待の防止の徹底	管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての勉強会を行っている。この勉強会后、職員間で虐待や、拘束など話し合う機会が増えている。利用者には優しい雰囲気来接するよう心がけている		
4. 理念を実践するための体制						
12		契約に関する説明と納得	契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に契約書を契約者と全て読み合わせをし、理解・納得してもらえよう、説明している。		
13		運営に関する利用者意見の反映	利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスの前など、利用者からの聞き取りの時間を設けている。自分で意思を伝えられない利用者には、入所の時から担当の職員が付いており、日々の生活の中から把握するように努めている		
14	7	家族等への報告	事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族との面会時には、利用者の状況を積極的に詳しく報告、説明している。また、月一度、家族に手紙で状況を伝え、写真を送付している。電話での報告、連絡も行って		
15	8	運営に関する家族等意見の反映	家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との面会時に、担当する職員が利用者の状況を報告、説明するが、意見・苦情等も聞いている。契約書には苦情の窓口の連絡先が明記され、事業所の入り口にも掲示している		
16		運営に関する職員意見の反映	運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営者は職員全員に意見書を提出させている。管理者はフロア会議などで職員の意見を聞き反映出来るよう努めている		
17		柔軟な対応に向けた勤務調整	利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状況により、職員の勤務時間や人数を話し合い、調整している		
18	9	職員の異動等による影響への配慮	運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員は定着している。、異動、離職があった場合でも、馴染みのある職員は多く、利用者のダメージが少なくなるようフォローは欠かさず行っている		
5. 人材の育成と支援						
19	10	職員を育てる取り組み	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しく職員になった場合には、新人研修を受けることとしている。経験によって、段階的に実務者研修など受けている。また、事業所では定期的に勉強会を開いている		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
20	11	同業者との交流を通じた向上	運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者が開く、勉強会などに参加し情報交換もしている。職員は他施設の見学に行ったり、行事に参加したりして、サービスの質を向上するように取り組んでいる		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み	運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	系列事業者の職員と接する機会を作っている。職員間の相互の親睦を兼ねた会合など催し、気軽に話すようにしている		
22		向上心を持って働き続けるための取り組み	運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員は1年に一度、個別面談を行って、勤務状況や目標などを確かめている。掲示板に研修や講習など紹介している。会社で行っているヘルパー講習は割引した金額で受けられる。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応						
23		初期に築く本人との信頼関係	相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	全員ではないが、見学、短期体験入所をして、おにだか館になじめるか御自分で判断してもらっている。その時に、些細なことでも聞き、不安がないような入居までのプロセスをとっている。		
24		初期に築く家族との信頼関係	相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	全員ではないが、見学、短期体験入所をして、おにだか館になじめるか判断してもらっている。その時に、些細なことでも聞き、不安がないような入居までのプロセスをとって		
25		初期対応の見極めと支援	相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の希望を尊重しているが、短期体験入所の時に、グループホームより、違うサービスを利用されたほうがよいと判断できる時は、入所中の状況や、そこから判断出来たことを家族や担当されたケアマネージャに報告、相談している		
26	12	馴染みながらのサービス利用	本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居する利用者はおにだか館のデイサービスや訪問介護を利用されていた方が多い。入居された時は、それらの馴染みのある職員に顔をだしてもらったり、短期体験入所で知った職員に、「また会えてよかった」という雰囲気で入居している		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援						
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係	職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が人生の先輩であることは、全職員が常に思っている。一緒に食事作りをした時など、学ぶところも多い。行事などに限らず、生活を一緒にすることで、喜怒哀楽を共にしている。		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
28		本人を共に支えあう関係	家族との職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族訪問の時など利用者の生活状況を伝えている。また、利用者の生活暦などを尋ねる事で、家族共に今の日常の過ごし方に気づかせられる事がある。行事には家族にも参加してもらえるよう案内を出したりして		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	月一度、家族に手紙で近況の報告や、写真の送付をしている。電話でも報告、連絡、相談を行っている。家族の訪問時には職員が必ず近況の報告など話をして利用者と家族の良い関係が築けるよに支援している		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	花見や遠足などで、市川ゆかりの場所には毎年欠かさず行っている。また、一人ひとり想いが異なるような馴染みのせんべい屋や、利用者が会いたいと思っている人など大切にし、実現できるよう努めている		
31		利用者同士の関係の支援	利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者の状態によって食堂の席順など決めている。利用者同士で問題あれば職員が間に入って支え合えるように努めている		
32		関係を断ち切らない取り組み	サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了し、退所された場合は、電話などで状況を聞く時もある。家族などから相談があった時は、対応するようにしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
1. 一人ひとりの把握						
33	14	思いや意向の把握	一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者には担当の職員がいて、より馴染みの深い関係を築いている。利用者の思いや希望はフロア会議などで話し合い、実現出来るように努めている		
34		これまでの暮らしの把握	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントの時にわからなかった生活暦など、それらの生活を希望するのであれば実現出来るように努めている。馴染みのある家具などは自由に持ち込んでもらって		
35		暮らしの現状の把握	一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	朝昼夜と利用者の状態が異なるとき、気が付いたことは、申し送り、個人記録に記入するなど職員共通に把握するようにしてい		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し						
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画	本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成時は利用者の意思や、ケアのあり方など、利用者から聞き取りを行い、担当職員をはじめ、家族や関係者から意見を求めている		
37	16	現状に即した介護計画の見直し	介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成して	介護計画の短期目標のモニタリングや、変化があれば、その都度意見交換し見直している		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
38		個別の記録と実践への反映	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者について気が付いた事や、上手く言った事など、申し送りのノートに記入している。必要性があれば個人記録にも記入し、職員間で共有している。介護計画はいつでも見直す体制がある		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援						
39	17	事業所の多機能性を活かした支援	本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	時間外にデイサービスの大きなフロアを借りることによって、踊りをしたりしている。また、他のサービスとの交流があり、利用者同士の友人関係もひろがっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働						
40		地域資源との協働	本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	歌や踊りが好きな利用者が多く、自治会のサークルやボランティアが訪問し、支援してもらっている。消防から避難の仕方、消火器の使い方、心肺蘇生の方法などの救急対応の指導を受けている		
41		他のサービスの活用支援	本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	サービスの向上の為の意見交換や交流はあるが、他のサービスを利用したことはない。退所される時など他のサービスを利用する場合は、必要な情報提供するように努		
42		地域包括支援センターとの協働	本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	現在、取り組んでいない		
43	18	かかりつけ医の受診支援	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の選別は、本人、家族の希望を尊重している。入居時、連絡体制のある、おにだか館の近隣の医師をいくつか紹介も		
44		認知症の専門医等の受診支援	専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	おにだか館の近隣にある武田医院では認知症を理解しており、相談、支援を受けている		
45		看護職との協働	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をし	おにだか館の職員の看護師が日常の健康管理や医療を支援している		
46		早期退院に向けた医療機関との協働	利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連	看護職員が中心に病院関係者と連携をとっている		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有	重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について、かかりつけ医や家族と確認しているが、どのようにケアするか具体的なところまでは利用者全員については話し合っていない	○	重度化や終末期のケアについて、おにだか館の近隣の医師を招いて、勉強会を行う予定で、その体制を確立したい
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	主に看護職員、かかりつけ医と家族を中心に話し合っている。この先の予想される状態やリスクを検討し、チームでケアしている。事業所で対応できないと判断した場合は、退所先の施設等と連携をとり介護情報やかかりつけ医から医療情報を提供してい		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
49		住み替え時の協働による ダメージの防止	本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐこと	入居されていた時の情報は提供している。転居先で安心して生活が営めるよう、懇切丁寧に対応したい		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
1. その人らしい暮らしの支援						
(1) 一人ひとりの尊重						
50	20	プライバシーの確保の徹底	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレは共用であるがプライバシーや、羞恥心を配慮している。利用者に対する職員の接し方は、一人ひとりのプライドを尊重し、敬意ある言葉かけや対応を自然な感じで行う事を心がけている、個人情報などの記録などは職員のみ見られるように整理して		
51		利用者の希望の表出や自己決定の支援	本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の心の声が聞ける優しい声かけを心がけている。自分で意思が伝えられない利用者には日常生活の中から、意思や希望を「把握することに努め、思いが実現出来るように支援している		
52	21	日々のその人らしい暮らし	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望や生活のペースを大切に、支援している。また、行事などは、準備から手伝ったりと積極的に参加してもらえるようにしている		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援						
53		身だしなみやおしゃれの支援	その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみ、おしゃれは職員の見守りの上、季節、好み、着心地を考慮し支援している。理、美容は事業所に2ヶ月に1度訪問して来る美容院を利用している		
54	22	食事を楽しむことのできる支援	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材はメニューの決まっている宅配業者に届けてもらっている。利用者の重度化により、食事の準備、片付けのほとんどは職員が行っている		
55		本人の嗜好の支援	本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	現在お酒、たばこを嗜む人はいないが、飲み物は一人ひとりの好みを考慮し、おやつに関しては手作りの品で楽しめるよう心が		
56		気持ちよい排泄の支援	排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄状況をチェックして、習慣をつかんでいる。状況によってはトイレ誘導するなど、オムツの使用は減らすようにしている		
57	23	入浴を楽しむことができる支援	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日や時間を決めての支援は行っていない。その日の利用者の体調やタイミングを見計らい声かけ誘導し、入浴を楽しめるよう支援している		
58		安眠や休息の支援	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者の生活習慣やペースに合わせた支援をおこなっている。主に日中の生活上の活動を通じて安眠策を講じている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援						

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの残存機能を把握し、本人の自由意志にまかせ、職員は見守っている。混乱になる物は取り除いたり、思い出すことにつながる物は、さりげなく置いてある		
60		お金の所持や使うことの支援	職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の金銭管理能力は失行しているため、金銭管理は職員が行っている		
61	25	日常的な外出支援	事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	すぐにとはいかない時もあるが、希望どおりになるように支援している		
62		普段行けない場所への外出支援	一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族の協力を得たりしながら、実現出来るように支援している。話題になった場所などは、他の利用者も誘ったりして出かけている		
63		電話や手紙の支援	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙はないが、電話の支援はしている		
64		家族や馴染みの人の訪問支援	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問者にはゆっくりしてもらえるように、お茶を出したりしている。利用者の近況を報告したり、何か良い情報があるかなどコミュニケーションをはかっている		
(4) 安心と安全を支える支援						
65		身体拘束をしないケアの実践	運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について定例会や勉強会を行っているが、全職員が正しく理解しているとはいきれない。常に身体拘束がないか職員間で話し合い、チェックしている。車いすの利用者も安全ベルトは使用しない。		
66	26	鍵をかけないケアの実践	運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全居室、鍵をかけないケアの実践を行っている		
67		利用者の安全確認	職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、夜間問わず、プライバシーを配慮しながら利用者の所在確認や、様子を把握することに努めている		
68		注意の必要な物品の保管・管理	注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の状況に応じて行っている。洗剤などの管理は鍵がかかる戸棚などに保管し		
69		事故防止のための取り組み	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒がないようにフロア会議などで、利用者の状況別に確認したり、危険な物を取り除くように話し合っている。転倒のリスクがある利用者には家族にも、そのリスクや対策を話をしている。誤薬は、会議の中で誤薬のない方法を出し合い、実行している		
70		急変や事故発生時の備え	利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急対応のマニュアルや、連絡の一覧がある。心肺蘇生の訓練は昨年消防の指導の元に行った。火災などを想定した避難訓練は定期的におこなっている		
71	27	災害対策	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は行っている。事業所の敷地の裏に、介護事業を理解している人などに、災害時など協力して頂ける様に働きかけて		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己評価	外部評価	タイトル	小項目			
72		リスク対応に関する家族等との話し合い	一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一日一度はバイタルサインのチェックを行っている。体調を崩したときは、看護職員が中心となって情報を共有し、かかりつけ医に相談するなどの対応をしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援						
73		体調変化の早期発見と対応	一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日一度はバイタルサインのチェックを行っている。体調を崩したときは、看護職員が中心となって情報を共有し、かかりつけ医に相談するなどの対応をしている		
74		服薬支援	職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとに使用する薬の一覧があり、職員が共有した情報になっている。薬の変更の時は、申し送りノートを活用して、周知し		
75		便秘の予防と対応	職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常生活から食事や体を動かす事などの工夫をし、便秘しないように支援している		
76		口腔内の清潔保持	口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアは、毎食後怠る事無く必ず行っている。義歯に関しても同様に夜間は、入れ歯洗浄剤を使用し常に清潔を心がけている		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常生活の中で、必要量の食事量、水分量は心がけているが、食事良や水分量が少ないと思われる利用者には一日のチェック表があり、摂取量を把握し、必要量を摂れるよう支援している		
78		感染症予防	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は年1度、利用者、職員共に行っている。感染症のマニュアルがあり、勉強会を行っている		
79		食材の管理	食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板などの消毒は毎食後行っている。本部の栄養士により、調理器具の衛生管理の指導を受け、不定期にチェックしてもらっ		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり						
(1) 居心地のよい環境づくり						
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫	利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	不特定多数の人達が中に入ってきて来れないように玄関には鍵をかけている。玄関周りには花壇に花を植えたりして、親しみやすいようにしている。花の時期には近隣の方が見に来たりする		
81	29	居心地のよい共用空間づくり	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の混乱がない程度の写真を掲示するなど、生活感や季節感のあるようにしている。廊下が少し暗い様に感じるが、利用者は不快を感じているようすはない		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり	共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂の隅にテーブルとソファがあって、気の合う人と話したり、独りで、お茶したりする場所がある		

項目番号		項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己 評価	外部 評価	タイトル	小項目			
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みの家具など好きな物を自由に持ってきてもらっている。部屋を使いやすいようにベッドの移動などの模様替えは、状況に応じて随時行っている		
84		換気・空調の配慮	気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	部屋や、廊下の窓を開閉することによって換気している。各部屋には空調設備がある。温度調整は主に介護職員がおこなって		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり						
85		身体機能を活かした安全な環境づくり	建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや、浴槽、廊下の要所要所に手すりが設置してある。介助があれば歩行可能な利用者は手を支えるなどして支援してい		
86		わかる力を活かした環境づくり	一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの残存機能を把握し、本人の自由意志にまかせ、職員は見守っている。混乱になる物は取り除いたり、思い出すことにつながる物は、さりげなく置いてある		
87		建物の外周りや空間の活用	建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関の外にある花壇を活用している。季節の花は近隣の方にも評判で、利用者も楽しみの一つである		

(様式1)

自己評価票

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
V. サービスの成果に関する項目			
88		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	① <u>ほぼ全ての利用者の</u> ② 利用者の2/3くらいの ③ 利用者の1/3くらいの ④ ほとんど掴んでいない
89		利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	① <u>毎日ある</u> ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
91		利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
92		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ころへ出かけている ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
93		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
94		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	① <u>ほぼ全ての利用者が</u> ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない
95		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	① <u>ほぼ全ての家族と</u> ② <u>家族の2/3くらいと</u> ③ 家族の1/3くらいと ④ ほとんどいない
96		通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	① <u>ほぼ毎日</u> のように ② 数日に1回程度 ③ <u>たまに</u> ④ ほとんどない

項目番号		項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
自己 評価	外部 評価	タイトル	
97		運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input checked="" type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
98		職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の2/3くらいが <input type="radio"/> ③職員の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
99		職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input checked="" type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
100		職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input checked="" type="radio"/> ②家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> ③家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない